

生態水文学研究所自動撮影カメラ調査成果報告 (2016年4月～2021年3月)

丹羽悠二^{*1}・高橋功一^{*1,*2}・里見重成^{*1,*3}

Monitoring report of the vertebrates using camera traps in the University of
Tokyo Ecohydrology Research Institute
(April, 2016–March, 2021)

Yuji NIWA^{*1}, Koichi TAKAHASHI^{*1,*2}, Shigenari SATOMI^{*1,*3}

I. 調査地

調査は愛知県瀬戸市と犬山市に位置する生態水文学研究所（以下、生水研）の赤津研究林（面積 745ha）¹⁾、穴の宮試験地（面積 77ha）¹⁾、犬山研究林（面積 443ha）¹⁾で行った。調査は、赤津研究林内の小流域北谷（65 林班）、小流域南谷（65 林班）、白藤川（62 林班）の 3 地点、穴の宮試験地内の量水堰（30 林班）の 1 地点、犬山研究林内の 14 林班と A1 量水堰（25 林班）の 2 地点に観測点を設定して行った。生水研の位置や、植生などの詳細については、ウェブサイト (<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/eri/>) を参照されたい。

II. 調査概要と使用機器

調査は 2016 年 4 月から 2021 年 3 月までの 5 年間行った。調査地ごとの稼働期間、撮影数内訳、使用した機器および設定条件、位置情報を附表-1 に示す。なお、鳥類も可能な限り同定を行った。

III. 結果

(1) 撮影数と確認種

撮影された総数は 7,574 枚で、そのうち有効撮影は 4,476 枚であった。鳥類を含む脊椎動物が確認できたものは 3,733 枚であった。その内訳は、ネズミ類を除く哺乳類 4 目 10 科 13 属 13 種 3,047 枚、ネズミ類 88 枚、判別不能哺乳類 149 枚、鳥類 9 目 15 科 22 属 26 種 413 枚、判別不能

* 1 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所

Ecohydrology Research Institute, The University of Tokyo Forests, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

* 2 現所属：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林

Present address: The University of Tokyo Hokkaido Forest, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

* 3 現所属：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林

Present address: The University of Tokyo Chiba Forest, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo

鳥類 39 枚であった。両生類・爬虫類は撮影されなかった。哺乳類の内訳はキツネ 31 枚、タヌキ 217 枚、イヌ 1 枚、アライグマ 452 枚、テン 14 枚、イタチ 31 枚、ハクビシン 211 枚、イエネコ 13 枚、イノシシ 1315 枚、ニホンジカ 127 枚、カモシカ 335 枚、ニホンリス 21 枚、ニホンノウサギ 278 枚であった。このうち、アライグマは環境省外来生物法の特定外来生物に指定されている。なお、赤津研究林では 12 種（キツネ、タヌキ、アライグマ、テン、イタチ、ハクビシン、イエネコ、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ、ニホンリス、ニホンノウサギ）、穴の宮試験地では 12 種（キツネ、タヌキ、イヌ、アライグマ、イタチ、ハクビシン、イエネコ、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ、ニホンリス、ニホンノウサギ）、犬山研究林では 11 種（キツネ、タヌキ、アライグマ、イタチ、アナグマ、ハクビシン、イエネコ、イノシシ、カモシカ、ニホンリス、ニホンノウサギ）が撮影された。鳥類の内訳はヤマドリ 54 枚、コジュケイ 31 枚、カルガモ 2 枚、ヤマシギ 4 枚、キジバト 99 枚、アオサギ 24 枚、ダイサギ 10 枚、ミゾゴイ 5 枚、オオタカ 6 枚、ノスリ 1 枚、フクロウ 2 枚、ハヤブサ 1 枚、カケス 23 枚、ハシボソガラス 7 枚、ハシブトガラス 6 枚、ヒヨドリ 10 枚、ビンズイ 1 枚、トラツグミ 64 枚、クロツグミ 7 枚、シロハラ 45 枚、アカハラ 4 枚、ルリビタキ 1 枚、シジュウカラ 2 枚、イカル 1 枚、カワラヒワ 1 枚、クロジ 2 枚であった。

(2) 鳥獣撮影リスト一覧

生水研で 2016 年 4 月から 2021 年 3 月までに撮影された鳥獣撮影のリストを附表-2 に示す。なお、一枚の画像に複数の種が写っている場合もあるため、附表-1 の鳥獣撮影枚数と附表-2 の延べ鳥獣撮影枚数の合計値は一致しない。

IV. 謝辞

本調査を進めるにあたり、多数の教職員のご理解とご協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 (2012) 生態水文学研究所第 5 期教育研究計画 (2011 (平成 23) 年度~2020 (平成 32) 年度). 演習林 51 : 305-396.

「附表－1」および「附表－2」については、東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository) に掲載しています。

URI: <https://doi.org/10.15083/0002002920>